

文教福祉常任委員会 先進地視察

5月22日から24日まで、行政視察を行いました。

石川県七尾市の地域福祉推進員は、任期2年で無報酬。おおむね50世帯に一人を配置し、より細やかな地域の見守り体制の構築に取り組んでいます。

活動は、地域における福祉課題の発見、見守りネットワークの構築や地域の行事への積極的な参加、さらには自主防災組織への協力など、多岐にわたっています。

背景には人口減少や高齢化対策等があり、震災と原発事故により地域コミュニティが崩壊している本市の現状に照らしたとき、住民が主導となって官民一体で取り組んでいる姿は非常に参考になりました。

七尾市の子育て支援施設では、平成18年7月に、子育て支援の拠点施設として市内中心部に「親子ふれあいランドあい・あい・あい」を設置しました。ここでは、従来の保育園で実施している1日、半日預かりに加え、短時間の預かり保育も実施しています。

さらにこの施設の中には、地域子育て支援センター、親子交流広場、おもちゃ図書館、絵本センターが設置されており、子どもたちの遊び場だけでなく、親同士の交流を通して親も一緒に育つ場と位置づけられています。

研修を通して、若年層が本市に帰還

しやすい環境を整える一助となると感じました。

富山県南砺市の「医療・福祉の連携」では、本年度から民生部の所管であった介護サービス事業所を医療局に編入し、名称を「地域包括医療・ケア局」としました。

これは、医療と介護の連携のためには、相互理解と物理的接近が必要であるとの認識によるものです。

さらに、市長と幹部職員で構成される「医療協議会」において、提示された解決策を検討し、具体的な施策として実施しています。

この「地域包括医療・ケア局」は、震災と原発事故後の本市の医療・介護サービスのあり方や各病院と開業医との連携・

すみわけを考
える際
に大い
に参考
になる
もので
した。



石川県七尾市「親子ふれあいランド」

建設経済常任委員会 先進地視察

5月23日から5月25日までの3日間先進地行政視察を実施しました。

長岡市では「災害公営住宅」の取り組みを学びました。長岡市は平成16年10月23日に直下型の中越地震に見舞われました。震度7の本震と余震により住宅の損壊は6万9千545棟、内、全壊は2千197棟と甚大な被害となりました。

いち早く罹災者公営住宅及び改良住宅の建設に取り組み、平成19年には入居が完了しました。その中での平成19年に完成したRC造6階建の38戸は20戸は高齢者用のシルバーハウジングとなっている。団地は防災公園や消防本部と隣接し安心・安全が確保され駅も近く周辺の状況から利便性の高い場所に建設されています。

ライフサポートアドバイザーが常駐する管理室、相談室、集会場などを視察し入居者に対し細やかな対応がなされていることが確認できました。当市のまちづくりは大いに参考とすべきものがありました。

富山市では「植物工場」の取り組みを視察しました。地域社会のインフラ整備事業としている北陸機材(株)が、自社の将来性を見据え、企業理念である「人によさしく安全・安心」の観点から辿り着いたのが最新の植物工場のスマイルリーフスピカ(株)でありまし

た。商品の育成については職員で実証実験を繰り返し試行錯誤の末現在に至っており、北陸機材の社員とパート15名体制で運営をしております。

植物工場のメリットは完全閉鎖型工場により病害虫が回避でき、無農薬栽培が可能となり計画的に時期も量も安定的に供給できる点です。反面、デメリットは生産コストが高いことが一番の理由となっていること。スマイルリーフスピカ(株)は設立から3年経過し、売り上げについては右肩上がりになっているものの、未だ黒字経営には至っていません。今年度は黒字経営に転化したとのことでした。当市でも取り組む課題として有意義な研修であると感想を付して報告と致します。



新潟県長岡市 災害公営住宅

議会だより編集委員会 視察報告

市議会、だより編集委員会では、5月7日・8日に、議会の内容を更に分かりやすく読みやすく編集することを目的として、先進地視察研修を行いました。

視察先は、いずれもコンクールで全国入賞をしている、新潟県聖籠町と山形県川西町としました。この地はこの度の東日本大震災及び原発事故では南相馬市民が、避難先として大変お世話になっている町でも有ります。御礼も兼ねて訪問することに致しました。

聖籠町の人口は、1万4千200人で、新潟県の海岸地帯の北部に位置し穀倉地帯です。

南相馬からの避難者数は、最大415人、現在は22名です。

研修内容では、「広報特別委員会」と位置づけ、6名で構成されており、読んでいただける議会だよりを作成することを目標に、留意点として次のことを上げております。

- ① 年一回の全国研修を受ける。
- ② 余白を入れる。
- ③ レイアウトは見やすくする。
- ④ 採択された請願・陳情は、その後の動きも報告する。

以上の苦労や努力が成果として確実に表れております。

川西町の人口は、1万7千209人で、



山形県川西町での研修

山形県南部のほぼ中心に位置しており、南相馬市から現在18名避難しています。

「広報常任委員会」と位置づけ6名で構成し、町民参加型の誌面特色としています。

- 2町の共通留意点として、
- ① 写真は広報の命である。
- ② 文字は短くする。
- ③ 専門用語は解説を付ける。
- ④ 一般質問のタイトルは自分で付ける。

今回の研修で学んだことを今後、反映して参ります。又、全国に避難している皆様にも読んでいただきたいと思っております。

原発事故で 児童生徒の体力は



横山 元栄 議員

問 原発事故で屋外活動が制限され、児童生徒の体力低下が懸念されます。本市の児童生徒の体力の実態と今後の対応策を伺う。

答 縄跳び大会で持久飛びの回数が例年より少ない、体育館3周で息が上がるなど、特に持久力が低下している。児童生徒の動きについては体が硬いなど柔軟性も低下している。各学校で体力向上推進計画を作成、運動身体づくりプログラムなどを活用、体育の授業の充実に努めている。

問 各学校の校庭の現状と対策は。

答 除染強化月間で学校など優先的に実施。新しく入れた砂が非常にやわらかいため、屋外運動などで足がぬかる状況。校庭で運動ができるように改善しているところだ。



除染後の高平小学校

問 体力・運動能力・運動習慣等の調査について本市の児童生徒の、平成22年度の調査をどのように評価しているのか伺う。

答 小学生は筋力と柔軟性にすぐれ、男子の持久力と瞬発力に課題がある。中学生は男子の持久力に課題があるもののその他は全国とほぼ同様の水準。小中

学生とも身長は全国と同様。体重が全国平均をやや上回っている。体力や運動技能を高めるため体育の授業を工夫するとともに生活習慣、運動習慣の改善を図るなど、運動に意欲的に取り組む児童生徒の育成に努める。

質問を終えて
 現況の校庭で伸び伸びと屋外で体育の授業ができるのかな—子供の体力低下が心配—

- その他の質問**
- ① 多目的屋内運動場の建設を
 - ② 特定避難勧奨地点未指定世帯の対応は
 - ③ パーソナル・サポート・サービスの認識は

一般質問